



協力者や資金を集め、脱炭素ミッションを実行するゲームで学んだ

「脱炭素ビジネスカレッジ」が9月16日、共生館で開かれました。気候変動対策を踏まえた「脱炭素経営」を学ぶため、町内事業者向けに開催したものです。参加者は気候危機と呼ばれる地球温暖化の現状などを学んだ後、CO₂排出削減を目

ゼロカーボンシティうちこを目指して 企業もまちも良くする「脱炭素」勉強会

指すカードゲームに挑戦。農家や小売店、行政などの役割に分かれ、町全体での脱炭素の取り組みを疑似体験しました。実施後には「互いに連携する大切さを感じた」「他者の立場で考える視点を得られた」など、多くの声が寄せられました。



上_完成した自治センターの前で餅まき
下_大久保獅子舞保存会が祝いの獅子舞を披露

ネットトヨタ瀬戸内(株)と内子町の「地域活性化包括連携協定締結式」が8月26日、内子町役場で開かれました。本協定は両者の資源活用などで相互に連携し、住民サービスの向上を目指すもの。町が進める部活動地域展開に対して、指導者派遣

指導者派遣で部活動地域展開を支援 ネットトヨタ瀬戸内(株)と町が連携協定

などのサポートが検討されています。小野植正久町長は「少子高齢化の中で課題は多い。支援をま



協定書を手にした平松社長(右)と小野植町長

温もりあるまちづくり拠点が完成 大瀬自治センター落成式

大瀬自治センターの老朽化に伴う建て替え工事が完了し、落成式が9月20日に開かれました。旧センターは昭和51年建築。建て替えに向けて整備検討委員会を令和4年に立ち上げ、新館に必要な機能などを踏まえて着工、8年7月に完成しました。木造平屋建てで大瀬の家並みになじむ外観、バリアフリーで木の温もりを感じる内観を備

えます。防災拠点としての活用も考慮し、太陽光発電設備や蓄電池も完備しています。式典では小野植正久町長が「これまで以上に、世代を超えて交流し、地域を盛り上げる拠点となつてほしい」とあいさつ。(株)四国建築設計など関係者に感謝状が贈られた他、餅まきや記念撮影、祝賀会なども行われ、地域の皆さんで完成を喜びました。



篠原さん(中央右)和西岡さん(同左)。「当時、林野火災注意報の発令中だった。延焼を防げてよかった」と安堵した

林野火災の初期消火活動を行った(有)篠原建設へ、大洲地区広域消防事務組合から感謝状が贈られ、贈呈式が9月7日に内子消防署で行われました。同社代表で消防団員の篠原孝(たかし)さんは7月28日、長田地区で火災が発生した際、現場近くで作業中だった従業員の西岡孝志(たかし)さんに散水車の手配を依頼。消防隊と協力して消火活動を行いました。高

瀬良治(りょうじ)消防長は「被害を最小限に抑えたのは初動対応のおかげ。皆さんの防災意識の高さに敬意を表します」と謝辞を述べました。西岡さんは「近付くにつれ煙が見え、恐怖がよぎった。何とかしないと、という一心だった」と話し、篠原さんは「山間部など水が限られる地域もある。万が一の備えの必要性を改めて感じた」と振り返りました。

人生100年を元気に、自分らしく 「内子町健康まつり2026」

「健康まつり2026」が8月29日、共生館で開かれました。まず「高池健康づくり優良者表彰式」が行われ、自治会の推薦を受けた4人に表彰状が贈られました。受賞者を代表して越智益子(ますこ)さんが「何をするにも元気が一番。毎年の健診を欠かさず受け、日々健康に過ごしたい」とあいさつしました。続く講演では、愛媛大学大学院医学系研究科の三宅映己(てるき)先生が「内子町

をもっと元気に！ 私たちでつくる『100年健康プロジェクト』と題して登壇。自立して元気に過ごせる「健康寿命」の大切さを伝え、「自分らしく暮らすため、健診で異常を見つければ、受診し、治療・管理するという流れを大事に」と呼びかけました。他にも福祉事業所などによるバザー、血管年齢測定、食育ポスター展示などがあり、自身の健康を考える一日となりました。

1_高池健康づくり優良者表彰の表彰式 2_休憩時間には町保健師が、座ったままでもできる体操を紹介 3_栄養バランスを考えた総菜や加工品などが並んだバザー 4_講演する三宅先生

